

# 今

シーズン、JAF F4選手権は車両規則を改定し、新しい時代へと踏み出そうとしている。じつは今年の車両規則改定が明らかになったとき、その意味を正確に把握しなかった一部関係者から「JAF F4は選手権に旧フォーミュラルノーの車両を受け入れることになった。これまでのJAF F4選手権は減じてしまいかねない」と危惧の声があがった。

たしかに既存の、しかも比較的安価に中古車が流通しているフォーミュラルノーを受け入れれば、従来のJAF F4車両を駆逐しJAF F4選手権は結局中古フォーミュラルノー選手権になってしまいかねない。

だがそれは大きな勘違いだと、日本F4協会は言う。「F4では、サバイバルセル（モノコック）は、JAF認定を受けたものしか使えません。昨年まで、認定を受けていたのは10年にJAFが開発したUOVAというモノコックだけでした。でも今年、タトゥースがフォーミュラルノーのために開発したものを加えたからです」。

アルミモノコックのマシンで争われていたJAF F4に新時代の安全基準を満たしたカーボン製UOVAが投入されたときにはさまざまな逆風が吹いた。「さまざまなコンストラクターが自前の技術でマシンを開発し走らせるのがJAF F4ではなかったが、カーボン製UOVAが現れたらコンストラクターが淘汰されてしまうのではないか」という危惧がそこにはあった。

たしかに、新時代の安全基準を満たしたカーボンモノコックが製造できるコンストラクターは限られている。UOVAはJAF F4の物作り環境を大きく変えてしまいかねない存在であったことは事実だ。しかしこの構想は「いずれ安全基準はカーボンモノコックでなければ満たせないレベルになる。カーボンモノコックは誰でも作れるものではないためJAFが開発した技術が供給するからそこに各コンストラクターが独自のアイデアを盛り込んだ足回りやボディを取り付けてオリジナルF4を作ればいい」というものだった。

実際、FIAが主導するレースでの衝突安全基準は年を追う毎に厳格になり、カーボン製モノコックを標準とする基準になっている。アルミモノコックのフォーミュラカーは特化した技術が必要で作りにくくなっている。

そこで事務局が踏み出して改定したのが今年の新たな車両規則である。一見すると「フォーミュラルノーのマシンをF4選手権に受け入れる」と錯覚するが、考え方は大きく異なる。「昨年まで選択肢はUOVAのみでしたが今年、フォーミュラルノーのモノコックを加えることで選択肢を増やしたからです。決してフォーミュラルノーのマシンでレースに出られる」という話ではありません。

つまりUOVA同様、フォーミュラルノーのモノコックを使って新しいオリジナルF4を作れるようにする、という考え方なのだ。

「フォーミュラルノーそのままでF4の規格には合わないためレースには出られません。少なくとも規格に合わせてフラットボトムとし、規則で義務づけられている側面防護体を装備するなど、JAF F4に作り替えていただかなければなりません」

搭載するエンジンとして、フォーミュラルノー用の直列4気筒2ℓエンジンもサバイバルセルとともにF4用エンジンとして認定を受けた。認定にあたっては既存の国産エンジンとの性能調整が行なわれる。基本は、尾川自動車により確認を受けECUによる最大180馬力目安の性能調整を受け、封印されたものという条件が付けられた。

こうした車両規定改定の結果「フォーミュラルノーのマシンをベースにJAF F4マシンを作る」ことが可能になったのであり、決して「フォーミュラルノーのマシンがJAF F4に出られる」ようになっただけではない。ただし選手権に出場するための改造は必要最小限ならば比較的安価で可能だ。

「自分たちの手でモノ作りをすれば、より安く済みます。JAF F4は、もともと自分たちでクルマを作って戦う、というカテゴリです。ワンメイクではない理由がここにあります。これをきっかけに、再びJAF F4という場に、モノ作りの機運が生まれ、てくれればいいと考えています」

実際、この車両規定改定を受けて、フォーミュラルノーのモノコックを使ったJAF F4開発が複数箇所で行

まっており、5月第2週にスポーツランドSUGOで開催された東日本シリーズ第1戦、第2戦にはフォーミュラルノーのモノコックとエンジンを組み合わせて開発したJAF F4マシン第1号がデビューしている。

依然として今回の車両規則改定に難色を示す関係者もいるとは言いが、時代背景が急速に変化するなか、「クルマを作った戦うレース」としてJAF F4が踏み出した方向性は、予想以上に好意的に受け入れられ「それならばうちも作ってみようか」という動きを生み出しているようだ。

## 規則変更から見る“F1的 ミドルフォーミュラ”の醍醐味

# 加速する“モノづくり”レース

自由な開発競争が衰退しつつあるなか F4選手権は新たな転機を迎える

## 2018 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP

# JAF F4

Paddock NEWS Vol.1

国内唯一開発競争のある  
ミドルフォーミュラF4の魅力を探る



### RACE RESULT

EAST SERIES		WEST SERIES		
Round 1 5月12日 ▶ スポーツランドSUGO	Round 2 5月13日 ▶ スポーツランドSUGO	Round 1 3月18日 ▶ 鈴鹿サーキット	Round 2 4月21日 ▶ 岡山国際サーキット	Round 3 4月22日 ▶ 岡山国際サーキット

JAF F4は“自分たちでクルマを作って戦う”カテゴリである



F4東西シリーズはダンロップタイヤのワンメイクレースです



F4協会HP  
www.f4k.co.jp